

★学校教育目標	「すべての“いのち”がよるこびあふれる未来をつくっていく力」を育むため、多様な関わりを通して、前向きに学ぶ力を育成する。	★重点計画の概要	(1)すすんで学ぶ【自己決定力】 自力解決の時間確保、互いの考えの交流、学びの成果発信の機会の設定とともに、児童が決める・選ぶ、進める学びの導入を通して、できる・分かる・認められる楽しさを味わわせる。 (2)助け合う【人間関係形成力】 「キャリア・パスポート」の活用やマイプラン・スクールを通して、互いに支え合い、違いを認め合い、自分の成長に自信がもてる仲間集団をつくる。 (3)楽しく運動する【実践力】 アスリートによる特別授業、第四幼稚園との運動や遊びの交流、体力アッププロジェクトを通して、体を動かす楽しさ・心地よさの向上を図る。
★目指す学校像（ビジョン）			
【目指す児童・生徒像】	○すすんで学ぶ【自己決定力】 ○助け合う【人間関係形成力】 ○楽しく運動する【実践力】		
【目指す学校像】	○児童が、互いに支えあい、違いを認め合い、自分の成長に自信がもてる学校 ○保護者・地域住民の方々が、安心して子供を通わせ、自らも参画する学校		
【目指す教師像】	○教職員が、児童理解に基づき、組織の中で強みを発揮する学校		

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	評価指標・評価基準				学校評議員・学校運営協議会の意見	結果の分析と改善策		
				評価点	取組指標		評価点			成果指標	
みんなが当事者として、自ら歩む道をつくる	児童一人一人の理解のしかたやペースに合った多様な学びと学び方	自分で考え、すすんで学ぶ自己決定力を育てるため、できる楽しさ、分かる楽しさ、認められる楽しさを味わえる授業をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の力で問題に取り組む時間の確保 互いの思いや考えを交流する場の工夫 学びの成果を発信する機会の設定 月に1回以上、児童が決める・選ぶ、進める学びの導入 一人一台のタブレットPCの活用 	4	4	児童が決める・選ぶ、進める学びを3回以上実践した教員が90%以上。	4	4	アンケートで「できた」「分かった」と答えた児童が90%以上。	<ul style="list-style-type: none"> ・とてもできていると実感している。「児童が決める。選ぶ」というのは、実はとても難しいこと。全て子供への大人の関わり方が基準となり、この目標が自然と四小に定着してきたように思う。素晴らしい。 ・一人一台のタブレット活用により、膨大な情報の中から自分が求めているものを見付け出すことは、大人より子供の方が上手になっていく。 ・算数を2クラスを3つに分けて、それぞれの能力に合った教育の仕方等、一人一人の理解に合ったペースで進められている。 	自分で考え、すすんで学ぶ中で、できる・分かる楽しさ、認められる楽しさを味わえるように、交流する場を工夫したり、学びの成果をICT等を活用して発信する機会を意図的に設けたりした。その結果として、自分の力で問題に取り組む時間を確保することにつながり、児童の肯定的回答が93%という成果に現れたといえる。今後も、児童一人一人の理解の仕方やペースに合った多様な学びと学び方を進めたい。
					3	児童が決める・選ぶ、進める学びを3回以上実践した教員が80%以上。		3	アンケートで「できた」「分かった」と答えた児童が80%以上。		
2	児童が決める・選ぶ、進める学びを3回以上実践した教員が70%以上。	2	アンケートで「できた」「分かった」と答えた児童が70%以上。								
1	児童が決める・選ぶ、進める学びを3回以上実践した教員が70%未満	1	アンケートで「できた」「分かった」と答えた児童が70%以上未満。								
体を動かす楽しさ・心地よさの向上	最後までやりぬく実践力を育てるため、多様な関わりを通して、児童の興味や創造性、感性を生かすよう、運動や遊びを工夫する。	<ul style="list-style-type: none"> 体力・運動能力調査、意識調査から児童の強み・弱みを把握した授業実践 アスリートによる特別授業 第四幼稚園との運動や遊びの交流 体力アッププロジェクトの実施（年2回） 	3	4	児童の興味や創造性、感性を生かすような授業や活動を月1回以上実践した教員が90%以上。	4	4	アンケート、学習感想等で、肯定的な感想を答えた児童が90%以上。	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯、運動に親しめる価値観を獲得することは、できるだけ小学生・中学生までしておきたいことの一つである。アスリートの話を聞いた後、体力向上プログラムで体を動かす喜びを感じていると感じる。 ・休み時間は教員が一緒になって校庭に出て、児童と鬼ごっこやドッジボールをし、体を動かす楽しさ、心地よさを教員自らが導いている。 	最後までやりぬく力が育つように、体力・運動能力調査から児童の実態に則した授業、アスリートによる特別授業、第四幼稚園との交流、体力アッププロジェクト等、児童の興味や創造性、感性を生かす運動や遊びを工夫した。その結果、子供たちのウェルビーイングにつながり、児童の肯定的回答が91%という成果に現れたといえる。今後も、多様な関わりを通して、「体を動かす楽しさ・心地よさ」を向上させ	
				3	児童の興味や創造性、感性を生かすような授業や活動を月1回以上実践した教員が80%以上。		3	アンケート、学習感想等で、肯定的な感想を答えた児童が80%以上。			
2	児童の興味や創造性、感性を生かすような授業や活動を月1回以上実践した教員が70%以上。	2		アンケート、学習感想等で、肯定的な感想を答えた児童が70%以上。							
1	児童の興味や創造性、感性を生かすような授業や活動を月1回以上実践した教員が70%未満。	1		アンケート、学習感想等で、肯定的な感想を答えた児童が70%未満。							
みんなの多様な学びとあわせをつくる	自分たちで考え、語り合いながら生み出す探究活動	思いやりをもち、助け合う人間関係形成力を育てるため、互いに支え合い、違いを認め合い、自分の成長に自信がもてる仲間集団をつくる。	<ul style="list-style-type: none"> 児童一人一人の思いや願いをかなえる学級会の実践 対話を取り入れた授業観察の実施（2学期） マイプラン・スクールで探究した内容を伝える機会を設ける（学期に1度のアウトブツトデイの実施） 毎月の代表者会議の実施 	4	4	対話を取り入れた授業公開、又は授業参観を合わせて3回以上行った教員が90%以上。	3	4	アンケートで「よりよい学級・学校にするために話し合うことができた」と答えた児童が90%以上。	<ul style="list-style-type: none"> ・マイプランフェスタでの自分の探究の伝え方の工夫や、人の発表を聞く姿勢など、相手の伝えたいことへの理解が深まっていくと思う。6年間を通じて、子供たちの成長が楽しみ。 ・マイプランスクールで探究活動を安心安全に行うための先生がたの努力が感じられた。子供たちにとって学校が自分らしくいられる場になっていくことを望む。この取り組みで不登校も減ると思う。 ・授業の進め方として、早く問題を終わった児童がわからない児童に教えに行くなど、一人一人の思いやりをもった授業になっている。 	思いやりや支え合い、違いを認め合い、自分の成長に自信がもてる仲間集団をつくるように、児童の思いや願いをかなえる学級会、対話的授業、マイプランフェスタを実施した。その結果、自ら考え、語り合いながら生み出す探究活動をすすめることにつながり、児童の肯定的回答81%に現れたといえる。今後も児童の実態に応じた人間関係形成力を身に付けさせるための方策を講じる。
					3	対話を取り入れた授業公開、又は授業参観を合わせて3回以上行った教員が80%以上。		3	アンケートで「よりよい学級・学校にするために話し合うことができた」と答えた児童が80%以上。		
2	対話を取り入れた授業公開、又は授業参観を合わせて3回以上行った教員が70%以上。	2	アンケートで「よりよい学級・学校にするために話し合うことができた」と答えた児童が70%以上。								
1	対話を取り入れた授業公開、又は授業参観を合わせて3回以上行った教員が70%未満。	1	アンケートで「よりよい学級・学校にするために話し合うことができた」と答えた児童が70%未満。								
いじめ問題の防止、早期発見	児童の心境の把握、児童理解に基づいた指導の推進によって、「分からない」と言える雰囲気、「教えて」「助けて」と言える関係、教え合い、助け合える風土をつくる	<ul style="list-style-type: none"> 学校いじめ防止基本方針「いじめ見逃しゼロ」（いじめを防ぐ、いじめに気付く、いじめから守る）に基づく組織的な取組 いじめ解消に向けた指導計画の共有、当該児童の精神的・心身的な状況の改善 	3	4	「子供のサイン・変化を見つめるチェックリスト」を年間を通して活用し、学年会や各級会で2回以上報告・連絡・相談を行った教員が90%以上。	3	4	アンケートで「先生は気付いてくれる・守ってくれる」と答えた児童が90%以上。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを普段からマイプランスクールなどで出せていたり、先生と話せる基礎があるため、嫌なことや言われたりされたりした児童は先生に報告することができる。教員もその都度話を聞き、当事者同士からも事情を聞いて問題を解決することが出来る。 ・児童数が多い学校だからこそ、担任がそれぞれのクラスの様子を把握し、その情報を学校全体で共有されていると思う。不登校支援もけやき教室やひまわり教室の活用など、居場所があることが大事だと感じる。 	「いじめ見逃しゼロ」の取組を進めた。「分からない」と言える雰囲気、「教えて」「助けて」と言える関係、教え合い、助け合える風土をつくった。その結果、いじめ問題の防止、早期発見につながり、児童の肯定的回答87%に現れたといえる。今後も、いじめ解消に向けた指導計画の共有、当該児童の精神的・心身的な状況の改善をすすめる。	
				3	「子供のサイン・変化を見つめるチェックリスト」を年間を通して活用し、学年会や各級会で2回以上報告・連絡・相談を行った教員が80%以上。		3	アンケートで「先生は気付いてくれる・守ってくれる」と答えた児童が80%以上。			
2	「子供のサイン・変化を見つめるチェックリスト」を年間を通して活用し、学年会や各級会で2回以上報告・連絡・相談を行った教員が70%以上。	2		アンケートで「先生は気付いてくれる・守ってくれる」と答えた児童が70%以上。							
1	「子供のサイン・変化を見つめるチェックリスト」を年間を通して活用し、学年会や各級会で2回以上報告・連絡・相談を行った教員が70%未満。	1		アンケートで「先生は気付いてくれる・守ってくれる」と答えた児童が70%未満。							
社会と未来に関き、みんなでつくる	わくわく（児童の疑問やおどろきから生まれる問い）が広がっていく環境のデザイン	<ul style="list-style-type: none"> よりよく生きようとする、よりよい地域社会をつくらうとする児童を育てるため、地域社会の教育資源を活用し、体験的な学習活動を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者、地域住民、外部講師の方々との連携による農業、栽培、郷土、文化、芸術、スポーツ、ものづくりなどの特別授業 学校Webページ等による取組の発信 	3	4	保護者、地域住民、外部講師の方々と連携した学校について、学校Webページ、授業録、保護者会、動物、児童の作品のいけりけりけりとして発信した教員が90%以上。	4	4	アンケートで、取組の発信について、肯定的な回答をした保護者の方が90%以上	<ul style="list-style-type: none"> ・環境ボランティアさんや校外学習にも付き添ってくれる学習ボランティアさんなど、学校の職員以外にもたくさんのかたに支えられている。 ・学校HPは、各学年毎の行事など、写真付きで子供たちの様子や地域のボランティアさんの活動なども発信されていて、とてもわかりやすいと思う。 ・PTAも協力して環境デザインを盛り上げていきたい。保護者の意識向上へ取り組む。 	よりよく生き、よりよい社会をつくらうとする児童を育てるため、保護者、地域住民、専門家等との連携による農業、文化、芸術、スポーツ、ものづくり等の体験的な学習活動を充実させた。その結果、わくわくが広がっていく環境をデザインすることにつながり、保護者の肯定的回答95%に現れたといえる。課題として、学校Webページ等による取組を全教職員が主体的に発信していくことが挙げられる。
					3	保護者、地域住民、外部講師の方々と連携した学校について、学校Webページ、授業録、保護者会、動物、児童の作品のいけりけりけりとして発信した教員が80%以上。		3	アンケートで、取組の発信について、肯定的な回答をした保護者の方が80%以上		
2	保護者、地域住民、外部講師の方々と連携した学校について、学校Webページ、授業録、保護者会、動物、児童の作品のいけりけりけりとして発信した教員が70%以上。	2	アンケートで、取組の発信について、肯定的な回答をした保護者の方が70%以上								
1	保護者、地域住民、外部講師の方々と連携した学校について、学校Webページ、授業録、保護者会、動物、児童の作品のいけりけりけりとして発信した教員が70%未満。	1	アンケートで、取組の発信について、肯定的な回答をした保護者の方が70%未満								
	0	0	0		4	0		4	0		
					3	0		3	0		
					2	0		2	0		
					1	0		1	0		

※評価指標・評価基準は、2の段階を現状としています。